

KONAN プレミア・プロジェクト

「博学プロジェクト」第3回公開シンポジウム

学芸員が語る” 多様なものの見方”

日 時： 2019 年 1 月 21 日（月） 13:00-14:30

会 場： 甲南大学 5 号館 2 階 5-21 教室

【プログラム】

13:00-13:05 はじめに

13:05-13:40 講演 1 生きた昆虫の博物館—学芸員の仕事と地域での活動

(坂本 昇氏 伊丹市昆虫館)

13:40-14:15 講演 2 植物学者と発見する、いのちの色

(鈴木慈子氏 兵庫県立美術館)

14:15-14:30 総合討論 (司会兼パネリスト 松本朱実)

甲南大学では、文学部歴史文化学科と人間科学科に博物館学芸員養成課程を設置しています。これらの学科に加えて、理工学部生物学科に、2016 年度の入学生から、博物館学芸員養成課程を開講しました。また、2019 年度の入学生からは、理工学部物理学科に開講予定です。これから、「人間文化と知識・伝統に関わる」博物館学と「自然に関する」博物館学を繋げる試みを通して、人と自然のサステナブルな社会の実現に向けた教育研究を進めていきたいと思います。

シンポジウムの第 3 回目である今回は、「学芸員が語る“多様なものの見方”」と題し、本学近隣の自然系博物館や美術館でご活躍の学芸員の方を迎え、ミュージアムでの実際の現場（展示や交流活動、研究・調査活動から）をご紹介いただきながら、学芸員がどのような知識や技術、学芸活動に取り組む姿勢を必要とするのかを考えてみたいと思います。

オーガナイザー： 今井 博之（甲南大学理工学部生物学科）
服部 正（甲南大学文学部人間科学科）
松本 朱実（甲南大学非常勤講師）

主 催 甲南大学理工学部生物学科
甲南大学文学部人間科学科・歴史文化学科

共 催 甲南大学統合ニューロバイオロジー研究所

お問合せ： imai@konan-u.ac.jp

担当教員： 今井博之（甲南大学理工学部生物学科）

生きた昆虫の博物館—学芸員の仕事と地域での活動

坂本 昇 （伊丹市昆虫館）

伊丹市昆虫館は、生きた昆虫を飼育し一年じゅう展示する博物館である。ここでの学芸員業務は、動物園の飼育員のような昆虫の飼育や植物の栽培、自然史博物館のような調査、研究、資料管理、展示、教育活動から施設管理まで非常に多岐にわたる。地域の小規模博物館は職員数も限られるため、一人が様々な業務を常に掛け持ちするのが日常であり、毎日是非常に慌ただしい。しかし、だからこそ多様な業務の面白さを味わうことができ、各自が自分の力で館をまわしている実感を持つことができる。そして、利用者との距離が近く交流や共同作業をする機会に恵まれるのも、地域の小規模博物館の面白いところである。

当館が関わっている地域での活動として、2006 年から実施している「鳴く虫と郷町」がある。これはスズムシ、キリギリスなどの生きた鳴く虫を中心市街地の施設や広場、商店などに展示して鳴き声を楽しんでもらいながら、20 ほどの地域の団体や企業、個人などが参加してさまざまなイベントを行なう事業である。博物館にとどまらず街へ出ていく活動は、難しい点もあるが地域の人に博物館の存在価値を認めてもらい、博物館と地域住民の心理的距離を縮めるきっかけとなる。

経歴

坂本 昇（さかもと のぼる）

大阪教育大学教育学研究科中途退学。現在伊丹市昆虫館 副館長（学芸員）

専門分野は博物館教育。蝶などの昆虫飼育、体験型展示や企画展「昆虫食」「ごきぶり」、地域ぐるみの事業「鳴く虫と郷町」などを担当。日本博物館協会棚橋賞、日本展示学会作品賞、論文賞などを受賞。



植物学者と発見する、いのちの色

鈴木 慈子（兵庫県立美術館）

兵庫県立美術館で2013年3月29日から6月23日まで開催したコレクション展「いのちの色 美術に息づく植物」では、館蔵品の中から「植物」をめぐる表現を選んで展示した。館のコレクションに含まれる、さまざまな作家の表現を比べてみることで、その豊かさを発見してもらうことを意図した。油彩画、日本画、版画、彫刻と多彩なラインナップとし、1階と2階あわせて7つの展示室を貫くテーマとして「植物」を設定した。

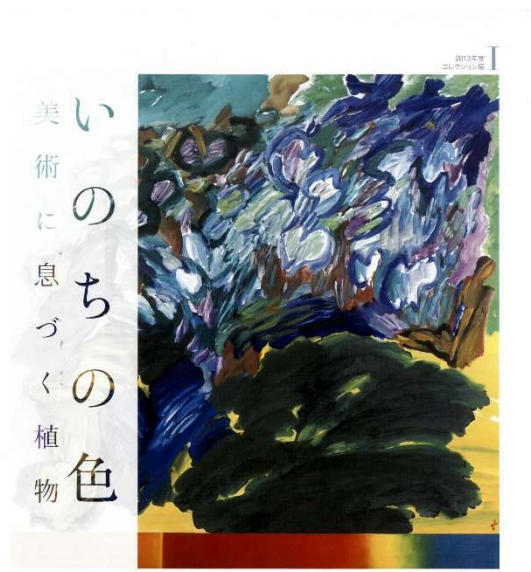
展覧会に際しては、兵庫県立人と自然の博物館のご協力により、展示解説の設置と関連イベントを行った。同館研究員の高橋晃氏と鈴木武氏に、出品作から作品を選んでいただき、それぞれについて短い文章の執筆を依頼した。それに基づいて、4つのコラムと26点の作品解説を収録したガイド「美術館で植物散歩」を作成し、展示室内で配布した。また両氏によるギャラリートークを会期中に2回、開催した。植物学者ならではの視点に基づく解説は、来館者にとって、美術に表された植物についてさらに考えるきっかけとなったようだ。

経歴

鈴木 慈子（すずき よしこ）

奈良県生まれ。専門は近現代美術。大阪大学大学院文学研究科修了。

2011年より兵庫県立美術館学芸員。「カミーユ・ピサロと印象派」（2012年）、「いのちの色 美術に息づく植物」（2013年）、「官展にみる近代美術」（2014年）などの展覧会を担当。共著に『〈場所〉で読み解くフランス近代美術』（2016年）。



2013年3月9日（土）→6月23日（日）

休館日 月曜日（ただし、4月29日（月）・5月6日（月）・5月13日（月）・5月20日（月）・5月27日（月）・6月3日（月）・6月10日（月）・6月17日（月）・6月24日（月））

観覧時間 午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）
※休館日の前日・後日・祝日の場合は入館は午後5時（入館は午後4時）

入館料 一般：500円（400円・300円） 大学生：400円（300円・240円）
高校生：65円（以上：250円・180円・150円） 中学生以下：無料
※17歳未満の子どもは保護者同伴で入館可能（※10歳未満は有料）
※障がい者同伴の方は入館料が半額（※10歳未満は無料）

主催：兵庫県立美術館 協賛：兵庫県立人と自然の博物館

兵庫県立美術館
HYOGO PREFECTURAL MUSEUM OF ART

